

プログラム番号	06025
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	東京海洋大学 海洋科学技術研究科		
②学長名	高井 陸雄		
③所在地	〒108-8477 東京都港区港南4-5-7		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	学生サービス課 留学生係	
	担当者氏名	大島 牧子	e-mailアドレス g-ryuu@s.kaiyodai.ac.jp
	電話・FAX番号	電話 03 - 5463 - 0436 FAX 03 - 5463 - 0437	
⑤ホームページ URL	http://www.kaiyodai.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	143人(うち、国費留学生 75人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	国際海洋科学技術実践専門コース
②プログラムの形態	博士後期課程(3年間)
③実施研究科・専攻	海洋科学技術研究科 応用生命科学専攻
	(所在地) 東京都港区港南4-5-7
④連携大学・研究科・専攻名	海洋科学技術研究科 応用環境システム学専攻
⑤受入れ学生数	7人(うち研究留学生優先配置人数: 5人) (うち日本人学生数: 若干人)
⑥担当教員数	合計 148人(うち専任: 136人、兼任: 12人、非常勤: 0人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 海洋科学技術研究科 ・ 教授
	研究科長名 竹内俊郎

【3. プログラムの内容】

プログラムの内容：東京海洋大学大学院では、人的・知的資源を活用し、相互に補い合うことにより、現在、地球的規模で生じている海洋に関する諸問題の解決を目指して、関連諸科学、技術について、工学的、農学的、社会科学的、学際的視点から考究し、新たな教育研究分野を創出し、それらを人材養成の中核に据えるものである。大学院特別コースでは、「海洋科学技術」をキーワードに、時代や社会の変化に機動的に対応でき、総合的、学際的かつ先端的な教育研究指導を行うこととし、応用生命科学関連研究として応用生物科学、食品機能利用学、ゲノム科学、先端魚類防疫学、応用微生物学、ヘルスフード科学などの分野、応用環境システム学関連研究分野として海洋環境学、環境保全システム学、海洋利用システム学、ロジスティクス、海洋機械システム学、産業政策文化学などの各分野について国際的に活躍できる専門科学者および研究者、技術者の養成を行っている。本コースは2専攻（応用生命科学専攻、応用環境システム学専攻）14専攻分野で構成されている。また、教員は特論や演習・実験を担当し、きめ細かい教育を実践している。本プログラムでは修了に必要な単位数として10単位を課し、専攻分野毎に2単位の合同セミナーおよび4単位の特別研究を開講している。合同セミナーでは1年生から3年生まですべての学生に研究計画および中間発表会を義務付けるとともに、国内外の著名な研究者によるセミナーに参加させ、議論の場を提供する。なお特論は2科目4単位が必須であり、各専攻内の研究を横断的に学べるようにコースを設定している。また本年度から、海洋観測・生物資源調査の実践教育強化として、世界の海洋で活躍する乗船技術者・研究者の養成コースを立ち上げており、その中で、平成19年度から日・豪・英・仏・独など多国間単位互換による「南極大学」を開設することとなっており、応用環境システム学専攻が具体的に取り組むことになっている。国際シンポジウムも企画するなど、本プログラムの学生に主体的に取り組んでもらい、リーダーとしての素養および国際感覚を身に付けた、実践的な技術者・研究者を目指すことになる。

プログラムの特色：特別コースに在籍する留学生に対しては、英語による教育指導を原則とする。募集は公募とするが、本学と大学間協定を締結している大学・研究機関を中心に募集し、留学生委員会で独自の選考を行う。また、日本での生活に支障をきたさないように、以下の特別な配慮を留学生に対して実施している。①日本語教育：本学国際文化論講座教員による留学生を対象とした中級日本語のクラスを開講。また、特別コースの学生に対する初級日本語クラスも開講している。②チューター制度：留学生がより早く日本の生活に慣れ、大学院における研究に集中できるように、上級生による助言サポートシステムの設置。チューターは、留学生の学内外における諸手続きや日本文化に触れる機会の手助けを行っている。③留学生の宿舎：本学では国際交流会館と学生寮に留学生が2年間入居できるように規則を定めている。さらに、東京お台場に設置された国際交流村に本学は近く、この国際交流村にも本学留学生が入居できる部屋を確保してある。④委員会の設置：本学教職員で構成される留学生委員会を設置。留学生が安心して日本での留学生生活を過ごせるように、留学生からの相談等諸問題に対応する委員会として設置。⑤学生サービス課においては、常勤の留学生係を配置し、学内事務手続き以外にも留学生の生活等についてのサポートや、留学生のための生活ハンドブック（英文/和文）を作成し、留学生に配布している。

教育研究環境の特色として、本学は水圏科学フィールド教育センター（4ステーション）や練習船6隻を利用し、教科書を利用した教育から実際にフィールドにおける実験・研究という実学まで幅広く行うことができる、国際的にも有数の教育環境を整えており、留学生に新たな技術や考え方を習得させるために、先端技術を中心とした実験実習を定期的に開催し、即戦力で有能な人材を養成し、社会へ輩出できる教育に努めている。また、アジア11カ国からの留学生に対して研究基金を助成し、更なる研究の発展に寄与する制度、海外での国際会議等での発表を支援する研究科長裁量経費による公募制度などを設けている。

東京海洋大学大学院国際海洋科学技術実践専門コース

2専攻（応用生命科学専攻、応用環境システム学専攻） 14専攻分野
<http://www.kaiyodai.ac.jp/Japanese/info/english/index.html>

我国唯一の海洋に関する教育研究拠点

留学生委員会による留学生受け入れ体制

チューター制度による日常生活のサポート
留学生委員会による大学生活のサポート
留学生のための生活ハンドブック（英文/和文）
アジア 11カ国の博士後期課程留学生の研究基金

教育研究環境

水圏科学 フィールド教育センター
練習船 6隻
連携大学院（水産総合研究センター等）
南極大学（日・豪・英・仏・独など
多国間単位互換）

教育・研究指導体制

大学院 シラバスの英語での表記
<http://www.kaiyodai.ac.jp/English/syllabus/index.html>
英語による授業
School of Internet Asiaを単位科目として認定
<http://www soi.wide.ad.jp/soi-asia/>
国内外の著名な研究者によるセミナーの開催
リサーチアシスタントによる研究指導補助
研究科長裁量経費による海外での発表 旅費の補助

国際的感覚を有し、リーダーシップを発揮できる
優秀な海洋科学研究者の育成

修了後

母国の大学・研究機関の指導者として活躍
世界各地で博士研究員として活躍

本学をはじめ、我国の大学・研究機関との国際共同研究の展開